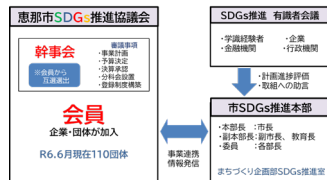


「住みたい田舎」であり続ける観光・交流・定住・安住・共生の恵那ライフ – ENA遺伝子の継承と伝達 –

岐阜県恵那市（2022年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	岐阜県南東部の東濃地域に位置し、面積は約504km²、人口約47,000人で、市域の77%を山林が占め、笠置山、木曽川などの美しい山河に囲まれる自然豊かな環境にある。また、名古屋市都心から約60kmの距離にあり、JR中央線、高速道路ともに約1時間で結ばれている。JR恵那駅の隣駅には、リニア中央新幹線の岐阜県駅が計画され、名古屋、東京へのアクセス時間が大幅に短縮される。今後、リニア新幹線新駅の隣接自治体となる利点を活かすことが課題。	2.関連するゴール 
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	地域の風土に根ざした食のまちづくり「恵那ふうど」に取り組む農産物生産者、食品加工事業者、食品店舗、飲食店等を認証する仕組みの構築、情報発信・交流・学習・特産品開発・販売・フードバンク等を推進する食のまちづくりの拠点の整備、食の体験型ツーリズムを推進し、三側面の取り組みを統合化する。	
4.自治体SDGs推進等に向けた取組 ■ 市長を本部長とする恵那市SDGs推進本部を設置。SDGsの取り組みを推進する。また、大学や企業等の有識者で組織する「有識者会議」を設置し、恵那市や、恵那市SDGs推進協議会の取り組みについて、助言等をいただく。 ■ 官民連携の取り組みの軸となる組織として、恵那市SDGs推進協議会を設置。交流会や研修会、講演会の開催などを行い、会員間の情報交換、事業連携、総合的な取り組みの推進を図る。 	6.取組成果 ■ 「恵那ふうど認証制度」として、恵那の風土を活かした食のまちづくり「恵那ふうど」に取り組む事業者を認証するシステムを構築し、事業所などの参加を呼びかけ、年度内に20の事業所が認証された。 ■ SDGs推進協議会の交流会やメールによる情報発信により、事業者同士のつながりや情報共有をすすめている。会員団体によるスポンサー食堂（子ども食堂）の活動を知った会員企業がスポンサーを申し出るなど、交流をきっかけとした連携がすすんでいる。 ■ 恵那市の文化的景観を活かした取り組みや、定住促進の取り組みが評価され、月刊誌「田舎暮らしの本」（宝島社）の「2024年第12回住みたい田舎ベストランキング」で、恵那市が全国「人口3万人から5万人未満の市」の総合部門で第1位に選ばれた。SDGs 未来都市の取り組みが評価につながっている ■ 恵那市オリジナルのSDGsシンボルマークを作成し、啓発等に使用している。	
5.取組推進の工夫 ■ 食に関するSDGsを推進するため、「ふうど認証制度」を実施。この制度をきっかけとした食の域内循環型の経済を目指す。制度を創設する際には、認証制度の位置づけや基準作りなどに時間を要したが、当初は認証の難易度を下げ、認証を受けてからの事業者の取り組み推進に重点を置くこととした。	7.今後の展開策 「恵那ふうど認証制度」を発展させ、令和6年度中に「ふうどポイント」を実施する。市民や事業者の制度の認知度をあげ、認証店のSDGsへの取り組み意欲の向上と、SDGsに関連した消費を心がける市民を増やしていく。 住みたい田舎ランキング1位となったこの機会を活かし、恵那市の文化的景観を生かした関係人口の増加と移住者の増加を、SDGsの視点をもって今後も推進していく。	
8.他地域への展開状況（普及効果）	■ 他県からの視察 2件、市内団体、地域、高校など（6件）へ出前講座を行い、当市の取り組みを紹介	